



自然が生んだ荒野の壮大な芸術
砂漠はかくも不思議なり

サンディエゴから北東へ進路をとり、車を2時間ばかり走り過ぎ、小さな町をいくつかわり過ぎ、間もなく時にさしかかると、それまで広がっていた緑の草木が茂る美しい風景は姿を消し、地表の岩や砂がむき出しになった緩やかな山が続くようになる。その峠を上りきった先に現れた景色に息をのんだ。視界の半分は青い空で、もう半分は乾いた茶色い大地。地平線まで広がる砂漠である。

「アンザ・ボレゴ砂漠州立公園」
この砂漠地帯は、カリフォルニア州最大の州立公園として自然保護区になっている。面積は約2430平方キロメートル。東京23区の約4倍だ。

砂漠というとサラサラの砂の大海を想像しがちだが、アンザ・ボレゴ砂漠は、風紋がつくられるような柔らかな砂地の広がる場所もあるが、ゴツゴツした岩肌が露出した大地もある。乾いた土や砂利で覆われたところもある。サボテンなどの植物が群生しているところもある。また、一帯は太古から続く地殻変動と浸食作用で盛り上がり、削られたりを繰り返して、それによって生まれた壮大な渓谷や奇景も見られる。砂煙が舞う荒野はカサカサに十からびて

Anza-Borrego Desert State Park

いるようだが、懐にはたっぷり水を蓄えていて、それがチヨロチヨロ湧き出す泉の周りには濃密な緑が茂り、可愛らしいハチドリが飛んで来たり、水たまりにオクマジヤクシが泳いでいたりもする。

「運がよければ水を飲みに来るビッグホーンにも会えるのだがな」
その綺麗な水が湧くオアシスまで案内してくれたレンジャーのステイブ・ビールさんは、そう言って周りに注意深く目を凝らす。ビッグホーンとは、北アメリカ大陸西部の山岳地帯に生息する太く大きな角をもった野生のヒツジである。

「一見、動植物が生きているには過酷な環境のようでも、この州立公園には植物や小さな虫も含めておよそ1万5000種類の生き物がいるんだ」
砂漠というその響きに、多くの人は何かしらのロマンを求めてこの地にやってくる。それは例えば、風の音しかない荒野だったり、永遠を感じさせる地平線だったりするのだろう。しかし、この大地を巡るうちに、砂漠はそれほど単純なものではないことに気が付く。

「ミステリアスだよ」とつぶやき、笑みを浮かべるステイブさん。
だから、砂漠に惹かれるんだ。



01 日が沈み、砂漠が色別を変えていく。02 オアシスの緑。03 浸食による渓谷、ザ・スロート。04 レンジャーのステイブさん。



05 砂漠に生えるヤシの本が月明かりに浮かぶ。この地面を掘ると水が湧く。06 遠か昔、砂漠に住んでいたネイティブアメリカンの岩絵。